

菊陽北小学校5年実践報告

白川を教室に

「理科」と「総合的な学習の時間」

白川わくわくランド ニュース

第27号

発行

●白川流域住民交流センター
(白川わくわくランド)
〒860-0854
熊本市東子飼町8-55
TEL・FAX (096) 346-5454
ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

菊陽北小学校では、この数年、白川わくわくランドに本校五年生がお世話になり、理科学習の『流れる水の働き』及び環境学習の一環で『水生生物調査』を行っています。

白川わくわくランド周辺を学習の場、実際に川に入って実験や観察をしたり、わくわくランドで学習をしたりして確かな学力の充実に努めています。

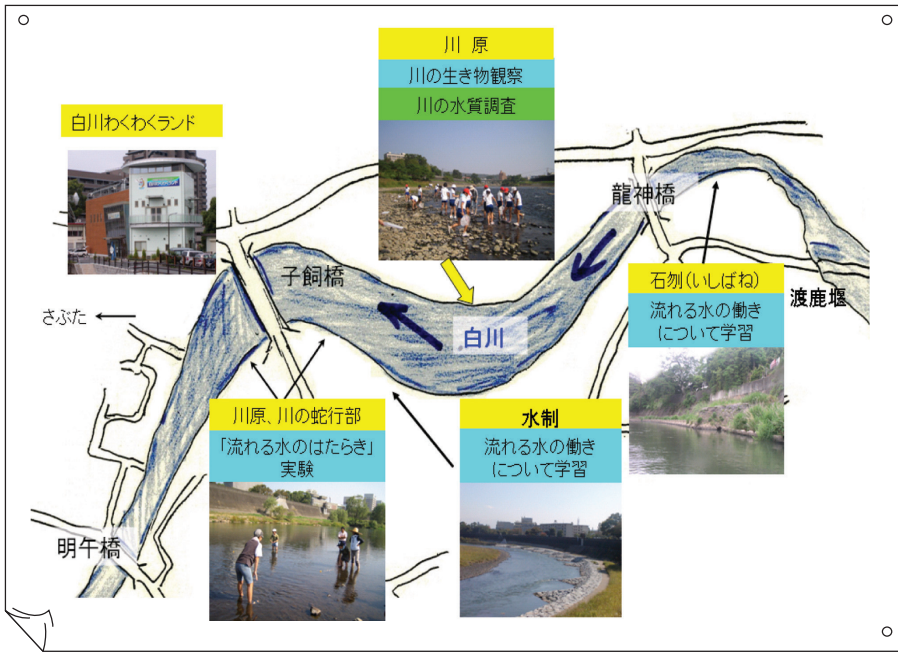
これらは、次のような本校の取り組みの一環です。

本校は、人権教育の視点に立った豊かな人間関係づくりを通して、子どもたちの豊かな未来を保障する確かな学力の習得に力を入れています。

もちろん、理科教育や総合的な学習の時間においても同様で、理科教育では、実験を始め体験学習を多く取り入れています。また、総合的な学習の時間では『環境学習』に特に力を入れており、雨水タンク設置による節水などの実践を行って水問題にも取り組んでいます。

このような学習のより確かな定着のために、わくわくランドを利用していきます。この取り組みは今後も続けたいと考えています。

(文責 重田 正孝)



一番心に残ったのは、水生生物調査です。私たちの学校のすぐそばを流れる堀川には、小魚やかめがいますが、白川には私たちが今までに見たことも聞いたこともない生物がいました。特に、水中の石をひっくり返してよく見ると、ヒラタカゲロウやヒラタドトムシなど、いろんな種類の底生生物が見られました。白川は、思っていたよりもとてもきれいな川だと分かりました。

5年 佐藤 穂奈美

心に残った事は、実際に川に入り、いくつかの実験をしたことです。その中でも下じきの上に砂や石ころを置いて、川の内側と外側で流すはたらきのちがいを調べる実験は、実験する前の私の予想した通りの結果になりました。

実際に川で実験をして、楽しく勉強が出来てよかったです。

5年 生山 華純

河口から数えて23番目の橋。国道3号(北バイパス)の白川右岸龍田陣内と左岸下南部をつなぎ、県道337号・豊肥線・白川をまたいで架かる。橋長214m、片側2車線で全4車線、歩道を有する。竣工は1991年。熊本市北部と熊本市東部をつなぎ、交通量が多い。

白川の橋(23) 龍田大橋



白川右岸から龍田大橋をみる。

植木方面をみる。この下を県道337号・豊肥線が走る。



寺子屋わくわく講座

「京の水辺づくり」

水辺の文化継承と防災・減災

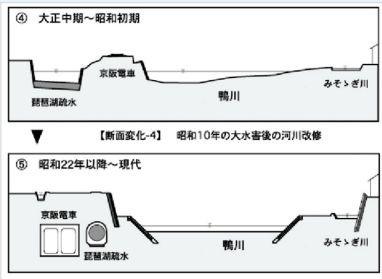


熊本の白川にも「水辺に親しむ」時代や場所があったかもしれません。しかし、暴れ川白川の治水や稲作のための水争いなど昔から白川には「戦う」イメージが強かったように思います。今回の講座では、その白川にまさに一石を投じられた気がします。

京都で育たれた田中先生の「京の水辺づくり」のお話は、とても興味をそそられるものでした。古来、都として栄えた京都、そこに育ったたくさんのお水辺の文化が紹介されました。修学院離宮・浴龍池や大覚寺・大沢の池(ダム)、遣水、夏の京都の風物詩・納涼床等々。しかし、この文化も京都盆地に流れ込む河川の治水無しには考えられなかつたものだと思います。

除(治水)するものですが、一方、高瀬川舟運への水の安定供給(利水)、納涼床の存続(親水)など、都市の人々の生活に潤いを与える景観の基盤施設として評価されているということでした。このような京都の水辺は、古来から人々が自然との「間」を大切にしてきたものであり、巧みな水の利用であり、川への柔軟な対応であるようです。熊本の市街地を流れる白川を改めて見つめ直してみると、治水を基盤にしながら、川と向かい合う川づくりが確実に進んでいる気がします。白川に背を向けず、川に目を向けていきたいと思えます。

特に、明治時代に舟運などの目的で造られた琵琶湖疏水は、京都を流れる白川と巧みに合流・分流させながら治水・利水を行っているそうです。また、明治期・大正期に行われたみそぎ川開削は、治水を第一の目的とした河川改修であり、鴨川の余剰水を排



断面変化

(昭和10年の大水害後の河川改修)
田中尚人氏講演資料より



納涼床とみそぎ川・鴨川
田中尚人氏講演資料より

日時	平成十八年十一月十七日(金) 十九時~二十一時
講師	熊本大学大学院 自然科学研究科 田中尚人 助教授
場所	白川わくわくランド
参加者	二十六名

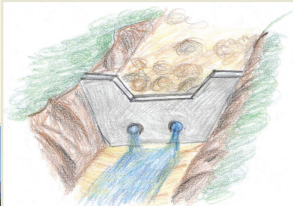
川の豆知識(11)

砂防えん堤

砂防えん堤は、荒廃した溪流の上流で、土砂が流れ出やすい所に造られ、下流に住む人々を守ります。上流から流れてくる土砂等を一時的に貯め、下流への土砂を調節するとともに、溪流に溜まっている不安定な土砂の流出を防ぎます。その働きは土砂を貯める以外にも、勾配を緩やかにし水の流れる部分の浸食を防ぐなど、土砂の流出を制御することができます。

洪水の時、砂防えん堤に溜まった土砂は、平常時に水の流れによって徐々に下流に流されていき、次の洪水に備えます。

白川流域でも、黒川上流の根子岳などに設置されています。

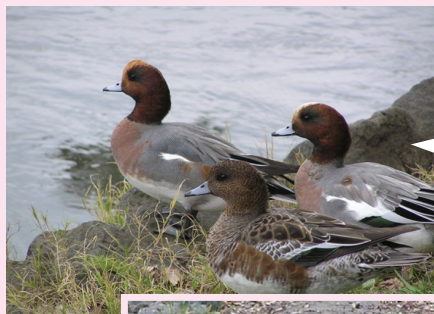


砂防えん堤



流木止め【写真提供 南里光則氏】

冬鳥到来!!!



ヒドリガモ
♂と♀



河川敷でカワラバトと一緒に餌をついばむ。柔らかい草が生え椋の実が落ちている。

白川中流域の自然と歴史

立野と瀬田

期日 平成一八年十一月十一日(土)
 場所 立野・大津
 講師 熊本県教育庁文化課
 稲葉一文先生
 橋口剛士先生
 参加者 十五名
 国土交通省立野ダム工事事務所

立野ダム建設予定地周辺は、豊かな自然に恵まれています。そこに棲む生きものを探したり、植物を観察したりするとともに、豊かな自然に配慮しながらダム建設が進んでいることを学びました。

また、瀬田池ノ原遺跡発掘現場では、石器造りに挑戦しました。この地は、大津町から長陽村へ行く国道五十七号の南側にあり、今、新しい方から弥生時代、縄文時代、後期旧石器時代の石器や土器などの品々が出土しています。豊かな自然の恵みを生かしながら、何万年も前からこの地に暮らした人々のことに想いを馳せながら、矢じり造りに熱中しました。



雨上がりの立野の白川河川敷では、着いたと同時にサワガニの出迎えを受けました。



ビンゴゲームの形式で、立野の植物観察をしました。ウベ・フユイチゴ・椎の実など秋の実りも発見。



瀬田池ノ原遺跡発掘現場では、県の文化課の方の指導で、黒曜石を使って矢じり作りに挑戦。

「てぶくろ」と「ゴーグル」をつけて石の破片にも注意して作業！思ったより鋭利。肉や魚を裂くことも可能だろう。

白川中流域

わくわくランド寺子屋

白川下流域

白川下流域探検

西部浄化センターと小島町界隈

期日 平成一八年十二月二日(土)
 場所 沖新町・小島町
 講師 熊本市役所職員の方々
 小島町の方々
 参加者 十四名

下流域の学習は、私たちが使った水をきれいにする施設、西部浄化センター見学と河川防災の拠点「熊本市小島河川防災ステーション」の見学、及び小島町界隈の探検でした。

白川河口左岸に設置された西部浄化センターは、熊本市西部地区を受け持つ処理場で、井芹川や白川の水質保全の役割を担っているそうです。

熊本市小島河川防災ステーションでは、災害に備えての話や、災害時に必要な道具を見せてもらったりしました。

小島町界隈では、オリエンテーリング形式で歴史豊かな町を回りまわりました。そこでは、優しい人々に会うことができました。



酸素を加えると微生物の力で水がきれいになっていくんだ！



いざという時は、このポーターで助け出すんだね。



お醤油になるのに2年間かかるんだって！

白川わくわくランド

寺子屋紹介

冬の白川 バードウォッチング

日時 平成19年2月17日(土)
10時~12時
場所 白川わくわくランド及び子飼橋周辺
講師 日本野鳥の会
田中 忠氏 ほか
対象 小学生以上(親子での参加可)
費用 100円(保険代)
必要なもの 防寒着・筆記道具

申し込み先 白川わくわくランド
TEL・FAX 096-346-5454

白川下流 山崎町界隈を歩く

山崎町界隈は、その昔白川左岸だったそう
です。その跡をたどります。

日時 平成19年3月24日(土)
9時~16時半
場所 集合は白川わくわくランド
花畑町・山崎町界隈
講師 熊本博物館考古学同好会会長
宮本 安之 氏
対象 高校生以上 費用 1200円(保険代+昼食代)

新刊図書紹介

紹介した図書の他にも色々な図書を購入しました。

河川文化

河川文化、川や水に関するテーマで、いろいろな人の取り組みや講演の内容が紹介されています。



地球の大常識

地球の大きさや重さ、私たちを取り巻く「地球」の事についてわかりやすく紹介されています。



川の楽校

川をフィールドとして安全で楽しく学ぶためのいろいろな方法が紹介されています。



「環境教育」一考

「白川はどれぐらいきれいですか。」

「白川にはどんな生きものがいますか」

7年前、ノートと鉛筆を持ってデータだけをほしがらる子供たちがたくさん来ました。私たち白川わくわくランドのスタッフも開館当初ということもあり、一生懸命それに応じてきました。

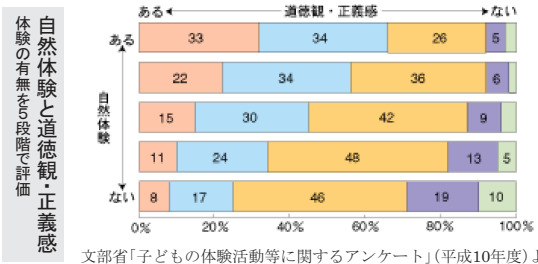
しかし、ある時、ふと、これでいいのかと思い始め、データだけを教えることをやめました。

「白川を覗いてほしい」「白川に来てほしい」「白川に入ってほしい」

そうすることで、川の水の様子も、生きものの姿も見えてくると思います。データだけのCODの値がどれだけだとか、ヒラタカゲロウがいるとかというのではなく、体験活動することで白川そのものを五感で感じることができます。

「知ることは感じることの半分も大切ではない(レイチェル、カーソン)」といわれています。体験を通して学びを実感していくことには、単なる知識を超えたものがあるはずで。

平成十年に当時の文部省が全国の小学生、中学生およびその親を対象に「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」を実施したことはご承知の通りです。その結果でも生活体験や自然体験が豊かな子どもほど「友達が悪いことをしていたら、やめさせる」「バスや電車でなどといった道徳観・正義感が身に付いている」という結果が出ています。



自然体験では、「チョウやトンボ・バッタなどの昆虫をつかまえたこと」「海や川で貝を取ったり、魚を釣ったりしたこと」「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見る」などの調査項目がありました。もちろん川での活動も自然体験の一つです。

「水際にコサギがピョンピョン跳びながら水中にくちばしをつっこんでいる」そのただ一つの場面からでもたくさんのことを学びます。

「…おもしろさ、楽しさ、恐ろしさ、美しさなどいろんな面をみせる川にとっても興味を持って活動することができました。…(龍田中三年 男子生徒)」

「…その中で一番の思い出が水切りでした。水切りでお兄ちゃん(わくわくランドスタッフ)や先生におしえてもらって水切りが2かいできたことです。…(山西小三年 女子児童)」

川と正面から向き合って活動するところから川の環境を考える子供たちが育つのではないのでしょうか。